

令和4年度 杉並区立松ノ木中学校 教育調査アンケートの分析と考察

杉並区立松ノ木中学校
学校運営協議会

1 アンケート調査の考察にあたって

学校運営協議会は、杉並区教育調査と学校独自調査をもとに松ノ木中学校の教育活動の大まかな傾向を明らかにし、次年度の教育課程編成及び学校運営の参考資料とされることを目指して分析と考察を行った。

① 回答の選択肢は次のようになっている。

a: とてもそう思う b: ややそう思う c: どちらともいえない
d: あまりそう思わない e: まったく思わない f: わからない

② 肯定率と否肯定率、中間率は次のように算出した。

肯定率 = (「とてもそう思う」 + 「ややそう思う」) ÷ 回収数 × 100

否肯定率 = (「あまりそう思わない」 + 「まったく思わない」) ÷ 回収数 × 100

中間率 = 「どちらともいえない」 ÷ 回収数 × 100

③ 調査はフォームズと質問用紙を使用して行いました。

④ 教育調査アンケートの回収数と回収率は次の通りです。

調査対象	在籍数	回収数	回収率(%)
生徒	237	208	87.8
保護者	237	232	97.9
教員	15	15	100
合計	489	455	93.0

⑤ 考察の視点は、

70%以上の肯定率を「満足できる状況」

50%以下の肯定率を「課題のある状況」とした。

また、否肯定率が20%以上を「課題のある状況」とした。

また、前年度の結果と比較して10%以上の変動のある項目についても抽出した。

2 生徒

教育調査 14 項目中の 9 項目、独自調査 13 項目中の 8 項目が 70%以上の肯定率を示している（中でも 4 項目は 80%以上）。

◇肯定率 70%以上（「満足できる状況」）の項目は次の通り。

- (6) 学校の授業によって、分かることやできることが増えている
- (7) 先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている
- (9) 先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている
- (10) 道徳の時間では、友達や家族、地域の人たちと共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている
- (11) 先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている
- (12) 学校や家などで、1 か月に本、新聞、雑誌、調べ物をするための資料などを読んだ
- (15) 友達や先生、家族のことなどで悩んだとき、学校に相談できる大人（先生、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域の人など）がいる
- (17) 学校では、地震や火事など、様々な危険を予測し、避けるための知識や考え方について学んでいる
- (18) 学校では、授業において図書館等を活用している
- (19) 先生は、体験的な活動や調べ学習を進んで取り組めるように教えてくれている
- (20) 先生は、学級活動や生徒会活動、学校行事に進んで取り組めるように教えてくれている
- (21) 先生は、あいさつの励行や決まりを身に付け、学校生活が向上するよう教えてくれている
- (24) 先生は学校生活が充実し、楽しめるよう教えてくれている

◇肯定率 80%以上（「さらに満足できる状況」）の項目は次の通り

- (1) 先生は、クラスのみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている
- (5) 授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる
- (8) 先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している
- (27) 感染症に対する予防対策ができています

◆肯定率が 50%以下（「課題のある状況」）の項目は次の通り

- (4) 授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる
- (13) 地域の行事に参加している
- (16) 特別支援学級や自校外の障害のある同じ年くらいの子ともと交流する機会がある

◆前年度の結果と比較して 10%以上の変動のあった項目は「地域行事への参加」(13)であった。

※調査結果より生徒たちは学校生活において学習面・生活面ともに前向きに取り組んでいる様子をうかがうことができる。

※学習面での質問項目に対して、10 項目以上が「満足できる状況」という結果となっている。先生方の日頃からの学習指導への取り組みの成果が結果となって表れている。

ICT 機器の授業への活用や調べ学習、授業の流れなど生徒たちにいていないに対応している。また、現在の学校教育に求められている「対話的な学び」を実現させていくために、「より良い人間関係の構築」や「対話的な学び」についても先生方が積極的に取り組んでいる様子を伺うことができる。

※一方で、「授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる」(4)の項目では、肯定率が49.5%と低くなっている。これについては、旧態依然とした教師主導型の指導方法が原因とも考えられる。校長先生、副校長先生の定期的な授業観察による指導や校内研修会等を行うことで指導スキルを上げるような工夫も必要である。

※「先生は、いじめや仲間はずれなどがなく、相手の立場を考え、互いに協力し合う関係が作れるよう教えてくれている」(23)の項目では、肯定率が64.3%となっている。否肯定率が9.5%。中間率が26.1%である。一方で同じ質問の教員の調査結果の肯定率では100%と乖離が見られる。難しいことではあるが、日頃からの声掛け、いじめ防止アンケートなど目に見える指導を積極的に行い、生徒たちの「安心・安全」を常に第一に考えた学校運営を進めていただきたい。

3 保護者

アンケートの回収率が98%と非常に高い結果となった。保護者の学校教育に対する期待とその意識の高さを伺うことができる。

教育調査13項目中の6項目、独自調査15項目中の6項目が70%以上の肯定率を示している。

◇肯定率70%以上(「満足できる状況」)の項目は次の通り

- (1)子どもの学校生活は、全体として満足できるものである
- (4)学校では子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている
- (7)学校は、ICT機器(電子黒板やデジタル教科書等)を活用した授業を行っている
- (8)子どもは、学校での生活を通して他者と共によりよく生きるための力が育まれている
- (9)子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている
- (13)学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている
- (20)教室や校庭などの清掃、整理整頓など環境整備が行き届いている
- (23)学校は学級活動や生徒会活動、学校行事に進んで取り組んでいる
- (24)学校は挨拶の励行や決まりを身に付け、学校生活が向上するよう取り組んでいる
- (25)奉仕活動など様々な体験活動を保護者や地域、関係諸機関と連携しながら進めている
- (26)必要に応じて保護者の意見や要望を取り入れている
- (28)感染症に対する予防対策ができています

◆肯定率が50%以下(「課題のある状況」)の項目は次の通り

- (11)学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している
- (12)子どもは、特別支援学校や特別支援学級の子どもと交流したり、一緒に活動したりする機会がある
- (15)学校は、障害など、参加に困難さを抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている

◇前年度の結果と比較して10%以上の変動のあった項目はなかった。

- ◆評価不能率について、15%以上の【回答不能】の回答があった項目は次の通り
- (11)学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している
 - (12)子どもは、特別支援学校や特別支援学級の子ともと交流したり、一緒に活動したりする機会がある
 - (15)学校は、障害など、参加に困難さを抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている
 - (17)義務教育9年間を通した一貫性のある教育（小中一貫教育）は、子どもたちの成長や発達により効果をもたらしている
 - (18)いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、教員が協力して取り組んでいる

※多くの保護者が学校運営に協力的で理解を示していることがわかります。学校での取り組みを一層理解していただくために、学校から保護者や地域に対して情報発信を工夫（改善）して行っていくことが必要である。

- ※「特別支援教育」（11）、（12）、「障害理解特別支援教育」（15）の質問については、回答することが難しく回答不能率が高い数値を示している。
- また、（12）の質問については、28項目中唯一否肯定率が22.9%と20%を超えた結果となっている。
- 「小中一貫教育」（17）の質問については、肯定率が58.5%でしたが、評価不能率が21.1%とこちらも高い結果となった。

4 教職員

教員の調査結果はほとんどの項目で、70%以上と高い結果が出ている。

※調査の母体数が15名と少ないため、結果の数字をもとに考察を進めていくことが適切か疑問である。

以下の3項目（3）、（4）、（5）については、肯定率が60～67%であった。またそれぞれの質問の否定者数が1～2名であり、「どちらともいえない」と答えている数が、4～5名であった。

- (3)カリキュラム・マネジメントの視点に立って、教科間のつながりを踏まえた教育活動に取り組むとともに、計画的な評価・改善を行っている
- (4)各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画を作成している
- (5)授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分たちで決めながら学べるようにしている

※生徒による授業評価アンケートを個別の教員で行い、生徒一人一人の学習状況の把握や評価アンケートの結果をもとに授業改善を行い、学習指導を進めていくことが必要と考えられる。

- (11)連携する小・中学校の教員が協力し合って各教科等の学習指導に取り組んでいる

※この項目については、今回の調査結果全体の中で肯定率が一番低く14.3%であった。

COVID-19も評価が低くなったことに関係していると思われる。

※児童と生徒にとってできることを、関係小学校と松ノ木中学校で組織として取り組んでいく必要があると考えられる。その際、各学校の学校運営協議会の委員同士の交流や小学

校と中学校の先生方の合同研修会にそれぞれの学校の運営委員が参加するなど、地域の子供たちのための取り組みなどについて共通理解を進めていくためにも話し合う機会が必要と思われる。

※松ノ木中学校は地域運営学校である。ところが、教育調査アンケートが教員だけの調査で終わっている。このことに対しては今後改善が必要と考えられる。今後はチーム学校として、子供たちの教育に教員だけでなく都事務職員や杉並区の職員など全教職員で携わる必要がある。管理職が中心となり組織としての対応を積極的に進めてほしい。

[考察]

※生徒アンケートの結果から多くの項目で肯定的な結果を読み取ることができた。

生徒による授業評価アンケートの結果を教育課程（学習指導や特別活動、特別の教科道徳、総合的な学習の時間）に生かすようにしてほしい。

※学習面については、子供たちの学力向上のために各教科をはじめとした先生方一人一人の必要に応じた授業改善を進めていくことに努めてほしい。

また、「子供たちの地域行事への参加」の項目(13)の結果が、肯定率 44.3%、否肯定率 28.0%、中間率 26.9%と低くなっている。今年度については、COVID-19の影響も関係していると思われるが、昨年度と比較した肯定率も 13.6%減少している。考えられる原因として、「子供たちが参加する機会が少なかった」、「参加する意思がない」、「行事についての周知がされていなかった」など、今後も検証していく必要があると考える。

※「学校や家などで、1か月に本、新聞、雑誌、調べ物をするための資料などを読んだ」の項目(12)では、76.9%と高い肯定率が出ているが、一方で否肯定率も 23.1%となっている。全国学力・学習状況調査や OECD の調査からも日本の子供たちの語彙力・読解力については課題が見られると指摘されている。学校だけでなく家庭や地域と連携して子供たちの将来を見据えた取り組みを進めていきたい。

※保護者アンケートの集計結果を見ると、学校生活については概ね良い結果となっている。多くの子供たちが安心して安全に学校生活を送ることができている。学校生活や学習環境など子供たちを取り巻く様々な環境が、校長先生をはじめとした教職員の日々の努力と保護者の協力によって作り上げられていると推察される。奉仕活動やあいさつなど基本的な生活習慣の質問項目の評価が高いことからもうかがうことができる。

※昨年度と今年度の肯定率を比べてみると、「28」種の質問項目中「16」種の項目で肯定率がごくわずかであるが下がっている。このことの原因の一つとして、「16」種のすべての項目で「どちらともいえない(3)」と回答した割合が昨年度よりも今年度は増えていることが、肯定率が下がった原因と考えられる。

※アンケート結果を基に、学校運営協議会から学校にお願いすることの一つに「中間率(どちらともいえない)」と「回答不能」の数を減らすよう努力が必要である。このことは、保護者ととも生徒についても同様のことがいえる。

※松ノ木中学校の教育活動や学習状況について、さらに周知していくことが必要である。これまで以上に、学校から生徒や保護者(家庭)・地域への情報発信・提供を例年通りではなく、新たな取り組み方法を視野に入れ積極的に進めていくようお願いします。来年度のアンケート結果が今年度以上の精度になるよう努めていただくことを要望します。